



糖尿病通信

—16—

糖尿病と上手にお付き合いするために

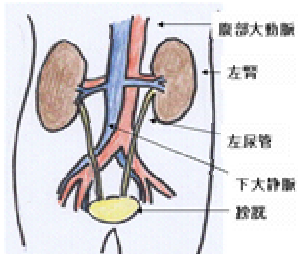
糖尿病と腎臓病 -その1-

腎臓は糖尿病の3大合併症の一つです。現在新たに慢性血液透析を開始した患者さんの約4割は糖尿病性腎症で、透析導入原因疾患の第一位となっています。

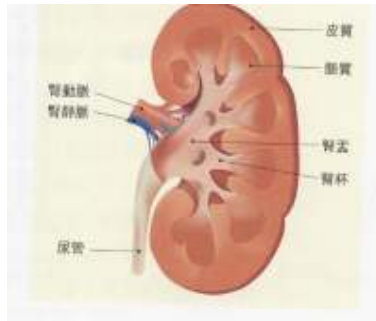
1. 腎臓の働き

腎臓は横隔膜のすぐ下で背中側にある、左右1対のソラマメ型の臓器です。血液をろ過して老廃物を取り除き、尿を作ります。この時、体の中の水の量や塩分の調節

する役目もあります。血液をろ過する装置は糸球体と呼ばれ、細い血管が毛糸球のように丸く塊りになっています。この糸球体が片方の腎臓でなんと約100万個(両



方で200万個!)もあります。1日に1500リットル(毎分100ml)もの血液がこの中でろ過されているのです。腎臓は静かな働き者ですね。



2. 糖尿病性腎症とは?

糖尿病で高血糖が続くと全身の細血管障害が起こります。糸球体も障害を受け、次第に壊れていきます。するとまず尿蛋白が出始め、進行するに従い腎機能が低下し(腎不全)、老廃物をろ過して尿に捨てることができなくなり、尿毒症と呼ばれる状態となります。そうなると透析療法を始めなくてはなりません。

3. 糖尿病性腎症の早期診断

初期には何の症状もありません。検尿しても尿蛋白はマイナスです。しかし、詳しく調べてみると尿中のアルブミンというごく小さな蛋白が増加しています。この状態を微量アルブミン尿と言い、糖尿病性腎症の分類では早期糖尿病性腎症と呼びます。この微量アルブミン尿は腎障害の始まりを示すだけでなく、動脈硬化症や心血管障害のリスクファクターとなります。

4. 糖尿病性腎症の治療

大事な腎臓を守るために、血糖、塩分、たんぱく質、血圧の管理が大切です。詳しくは次回に。 内科 柳澤

ステージ	尿蛋白	腎機能
第一期	正常 (尿アルブミン<30mg/日)	正常 時に高値
第二期 (早期腎症)	微量アルブミン尿 (尿アルブミン30~299mg/日)	正常 時に高値
第3期 A	持続性蛋白尿	正常
第3期 B	(>300mg/日)	低下
第4期		著明低下
第5期	透析療法	

スタッフ紹介



看護師 暖水(だんすい)です。今年糖尿病療養指導士に合格しました。患者様が退院後の生活に自信が持てるよう、支援していきたいと思います。

糖尿病のケア

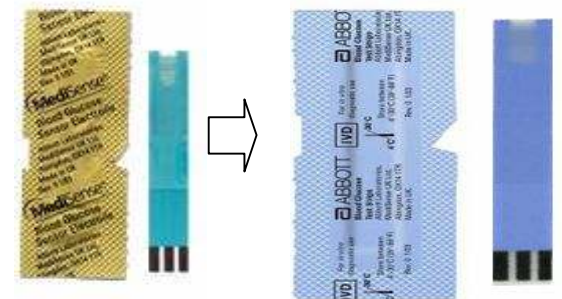


SMBG(自己血糖測定)についてのおしらせです。

エキストラ・エクシード電極が変わります。血液量が 1.5 μlから0.6 μlと少量に、測定時間が10秒から5秒へと短縮されました。使用方法は従来と同じです。お手持ちの電極(金色包装)を使い切ってから変更してください。新しいものは青色の包装です。

旧

新



今月から検査科採血コーナーにて SMBG の消耗品をお渡しすることになりました。自己血糖測定に興味のある方がいましたら採血コーナーまで声をかけてくださいね。

検査科 鈴木